

かかみがはらの埋文

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第8号



古代かかみ野シンポジウム風景
(4, 5頁に関連記事)

歴史は虹の帯

画期的な歴史開拓の年が平成11年度だったということができましよう。古代かかみ野の姿を求めて歴史的ロマンに燃えた歳でした。

バーフィールドは「歴史は虹だ」と表現しました。虹は水滴がないと見えません。しかし水滴が虹かと言えば、そうでもありません。見るところを変えれば別の感じがするものです。私たちは森市長を中心にして、より多くの史実を水滴にして、かかみ野の古代の歴史に虹を見つけようとしたのです。わが故郷に輝きを見つけ、かかみ野の台地に住む先人の偉業をみようとしたのです。

今後も史実の収集を続けますが、その中に邪馬台国と対立した狗奴国の虹が見えればと期待している所です。今後、中世の各務野、近世の各務野と現代に繋がる虹を求めて各務原市民みんなで史実を探そうではありませんか。

各務原市教育長 浅野 弘光

普及啓発講座
かかみ野古代史紀行

埋蔵文化財調査センターでは、これまで遺跡の発掘調査の他に、市内遺跡から出土した遺物展示や遺跡解説リーフレットの作成、夏休み親子体験講座などの普及啓発事業を行なってきましたが、今年度より市民を対象にした年6回の古代史講座を新たに開催することになりました。1年目の今年は、第1回は八賀晋三重大学名誉教授に各務原の歴史総論をお願いし、第2回から第6回は弥生時代から奈良・平安時代までの時代解説を専門家、研究者にお願いしました。

募集は4月に行ない、定員を30人としました。初めての事なのでどれくらい集まるか不安でしたが、歴史に興味を持っていただける方が多く、募集初日に定員に達しました。

受講された方の内訳は、男性21名、女性9名でした。男性は50代から70代、女性は30代の方から70代の方まで幅広い層の参加がありました。もっとも参加の多かった年齢層は男性・女性とも60代でした。

講師は6名の方をお願いしました。

第1回「各務原の古代文化」

三重大学名誉教授

八賀 晋氏



八賀先生の講演風景



熱心な受講生の皆さん

第2回「弥生時代の各務原」

財団法人愛知県教育サービスセンター 埋蔵文化財センター

石黒 立人氏

第3回「土器からみた各務原の古墳時代」

岐阜市教育委員会

内堀 信雄氏

第4回「各務原の古墳から探る美濃の中・後期古墳」

大垣市教育委員会

中井 正幸氏

第5回「各務原地域の古代史」

岐阜大学教育学部助教授

早川 万年氏

第6回「^{くにざかい}国境のかかみ」

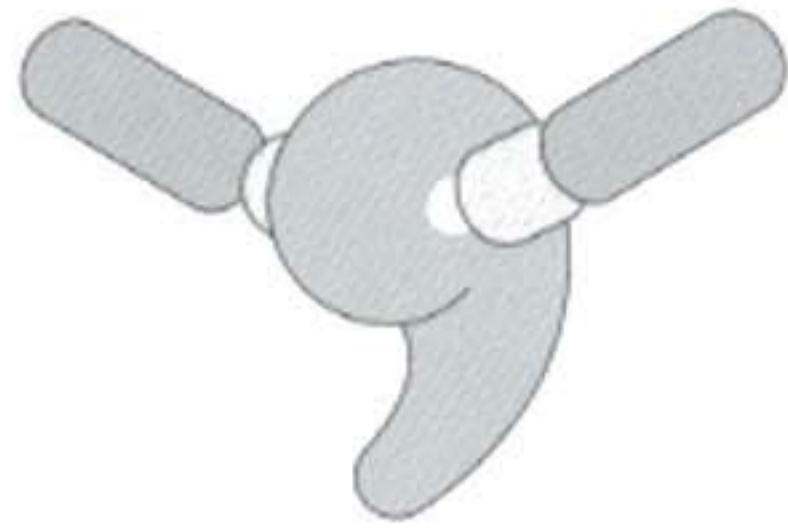
岐阜聖徳学園大学教育学部教授

清田 善樹氏

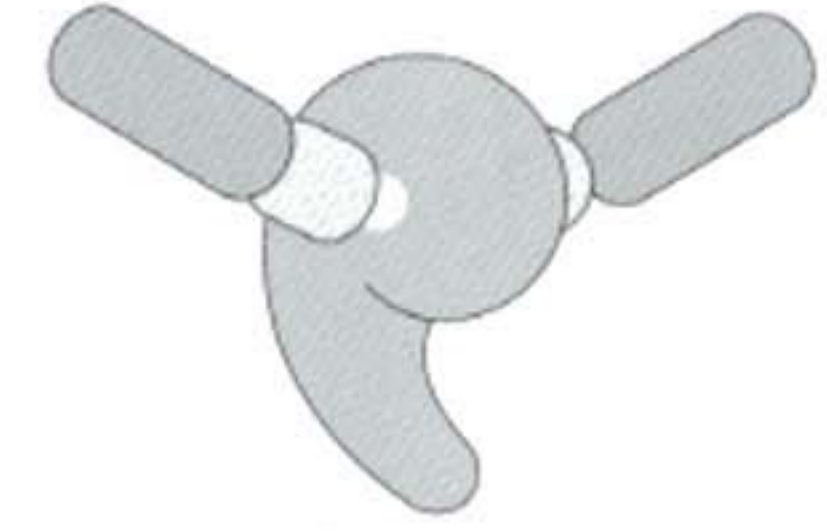
受講者の皆さんからは「講座全体を通して分かりやすかった」と感想をいただき、考古・文献資料から各務原の歴史に対して新たな魅力を感じていただけたようです。また「これからも継続して欲しい」、「プレ講座のようなものを職員で行なって欲しい」、「講座をまとめた刊行物を」という要望もいただきました。

平成12年度の講座は秋に予定しております。詳細は広報紙にてお知らせします。

また、講座をまとめた講義録集は、平成12年度中に刊行します。興味のある方は、センターまでお越しください。 (田中)



まが玉づくり



第4回 夏休み親子体験講座

埋文センターでは、平成8年度より夏休み親子体験講座を開催しています。4年目になる今年度は昨年同様視聴覚センター研修室をお借りして、平成11年7月31日(土)に「まが玉づくりに挑戦」教室を行ないました。

当日は前日までの不安な天気がウソのように快晴で、9組19名が参加されました。

皆さんは石を加工するという作業がほとんど初めての方ばかりで、慣れない手付きではありますが鋸で形を作り、錐で穴を開け、紙やすりで角を取り、きれいな丸みをつけていました。午前中は皆さん「本当に完成するかなあ」という状態でしたが、午後になるといくつかが形が出来始め、終了時刻になるとほとんどの方が玉を完成させていました。中には5個ものまが玉を作った小学6年生の男の子もいて、最近の子供は不器用だと言われますが、実は道具を使う必要が無いからであって、使う機会を与えることができれば、すぐに慣れて器用に使いこなすのではないか、と思われました。

参加者感想文(一部抜粋)

作れて良かった。かなり苦勞して少し嫌な思いもした。(青井 貴志・尾崎小)



まが玉づくり作業風景



親子で協力して作り上げよう

きれいなまが玉が作れて良かったです。家でも、もっと違う玉をいっぱい作ってみたいです。(今村 菜裕美・那3小)

1個だけ失敗したけど、あとは全部うまくできたので良かったです。(加藤 瑛士・那3小)

実際やってみると結構難しかった。でも良い作品が出来たので良かった。

(木村 峻士・蘇中)

昔の人はこんな大変な事をやっていたのだと分かり、感心しました。(末原 佑美・那2小)

まが玉が好きだったので作っていて楽しかったです。でも手が痛くなりました。

(宮越 麻理恵・蘇中)

お母さんにほとんど手伝ってもらいました。あまり遊んでくれないお母さんとできたので満足です。(村井 あゆみ・鶴2小)

のこぎりで形を作ったり、きりで穴を開けたのが大変かったです。(森 綾音・那1小)

4時間も時間があつたのに一つしか作れなかったのが残念だった。(横山 浩士・桜丘中)

*皆さん、ご苦勞様でした。参加していただき有り難うございました。(埋文センター一同)

(田中)



森 真 各務原市長

古代かかみ野シンポジウム

— 邪馬台国・狗奴国時代の濃尾平野 — を終えて
平成11年11月20日(土), 各務原市産業文化センターの「あすかホール」にて開催しました。市内を中心に遠方からも参加いただき, 入場者は480名という大盛況でした。

このシンポジウムは, 各務原市・犬山市交流事業提携記念, そして新犬山橋完成記念という位置付けのもと, 両市長がパネリストとして参加する内容で企画, 実施したものです。目標は, 狗奴国東海説を紹介しながら, 弥生時代から古墳時代の様子をわかりやすくまとめることです。

岐阜県各務原市と愛知県犬山市は, 木曾川を挟んで隣り合う, この大河と深く関わりあって歴史を歩んできました。今回のシンポジウムを通じて, 現在の行政区分にとらわれない視野から, 古代史を考えることの大切さを学んだような気がします。

1. 講演「各務原・犬山地域の古墳文化」

愛知県埋蔵文化財調査センター 赤塚次郎 さん

『魏志倭人伝』には, 3世紀中頃に邪馬台国と狗奴国が争ったと記されています。その結果について, 赤塚さんは狗奴国の方が有利な立場に立ったのではないかと研究してみえます。

また各務原・犬山地域(可児地域まで含む)には, 4～5世紀頃の古墳が多く分布しています。この頃, 美濃・尾張とは異なるもう一つの勢力圏がこの地域に存在した可能性が高いことを, 軽快にわかりやすく説明していただきました。

また各務原・犬山地域(可児地域まで含む)には, 4～5世紀頃の古墳が多く分布しています。この頃, 美濃・尾張とは異なるもう一つの勢力圏がこの地域に存在した可能性が高いことを, 軽快にわかりやすく説明していただきました。



石田 芳弘 犬山市長

2. 座談会「古代ロマン

濃尾平野に狗奴国の足跡を求めて」

各務原市長 森 真

犬山市長 石田芳弘 さん

愛知県埋蔵文化財センター 赤塚次郎 さん

国際日本文化研究センター 教授 宇野隆夫 さん

各務原・犬山両市長は, 古代史についての自説を楽しく語り合い, 2人の考古学者からは重要な意見を頂戴し, 大変盛り上がりました。

森市長は, 邪馬台国が近畿地方だとしたら, 狗奴国は濃尾平野である可能性が高く, なかでも各務原・犬山地域はその候補地として条件の整った地域であると力説しました。

石田市長は, このような歴史的環境を大切に引き継ぎ, これからの街づくりに生かしていきたいという考えを, 力強く話されました。



講演中の赤塚次郎さん



座談会の様子

3. 講演「前方後方墳と前方後円墳、 その形の違いの謎と狗奴国を巡って」

国際日本文化研究センター 教授 宇野隆夫 さん

方形という形を採用した古墳は、当時の中国では円形のものより位が高かったということをお話いただきました。前方後円墳のお墓は、やはり注目すべきであるようです。そして、連合体であったと考えられる狗奴国は、邪馬台国との争い後も存続し、4～5世紀にかけては、各務原・犬山地域に首都が移転された可能性もあるという、興味深いお話をいただきました。



講演中の宇野隆夫教授

4. 討論会「邪馬台国・狗奴国時代の濃尾平野」

愛知県埋蔵文化財センター 赤塚次郎 さん
国際日本文化研究センター教授 宇野隆夫 さん
犬山市教育委員会文化財課 平松久和 さん
各務原市教育委員会文化課 大熊茂弘 さん

シンポジウム資料集「木曾川兩岸に栄えた古代文化」を活用しながら討論会を開きました。各務原・犬山地域に残された遺跡や古墳を確認しながら、会場の皆さんと共に古代史の展開を追いました。

両市における発掘調査・研究の最新成果が整理され、画期的な討論会になったと思います。



シンポジウムの様子

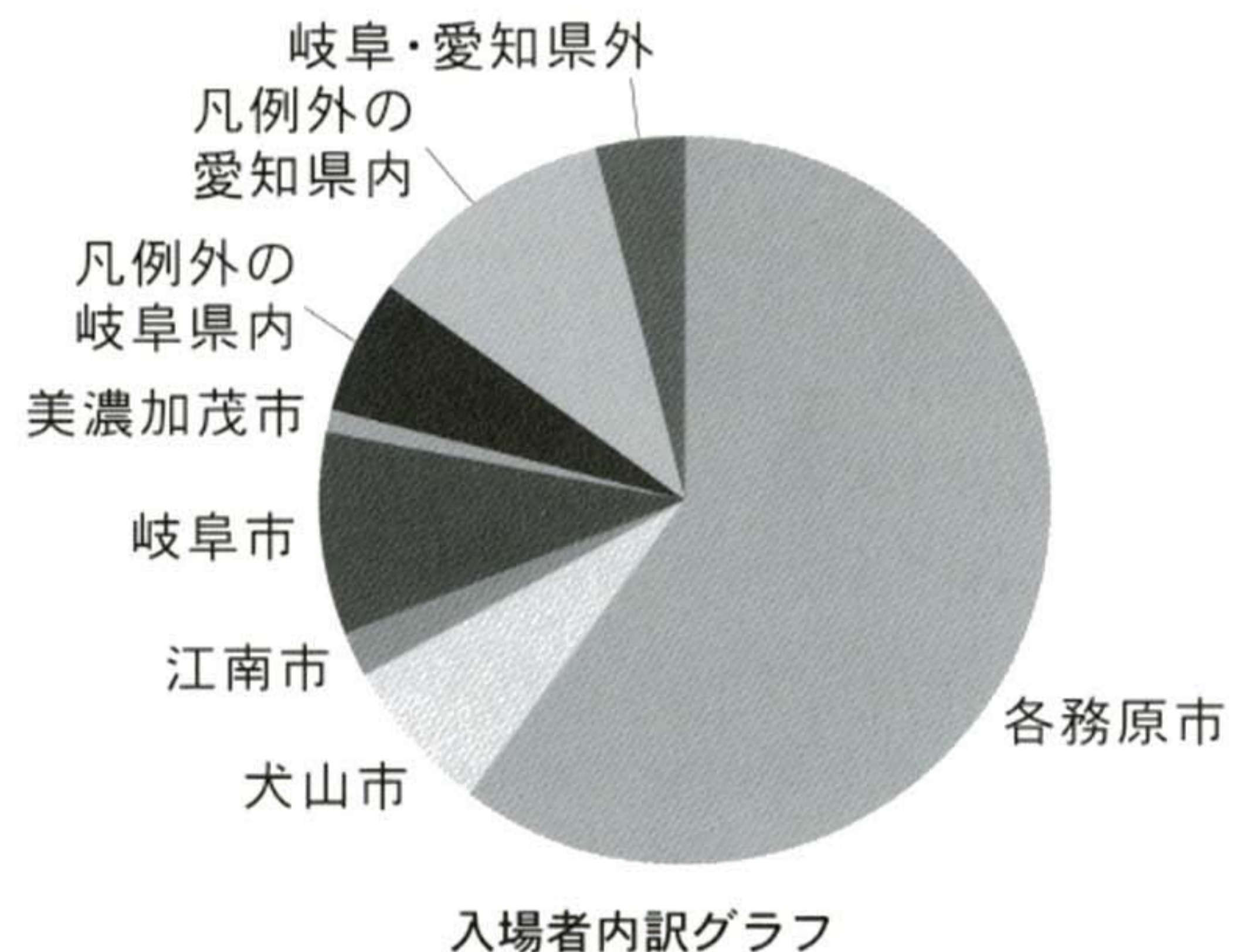


5. まとめ

各務原市鵜沼東南部と犬山市北部の木曾川兩岸地帯は、地理的環境や遺跡・古墳の分布から、一つのまとまりを持った地域として、非常に注目できることがわかりました。

これらの地域は、今後の発掘調査の進展により、さらに驚くべき事実が浮かび上がってくるような予感がします。

今回は、パネリストの方々をはじめ、多くの関係者・関係機関からご協力いただき、そして当日多くの皆様にご参加いただきましたことを、厚くお礼申し上げます。 (西村)



ツインブリッジで結ばれる両市

てんじいぶつしょうかい 展示遺物紹介 その1

古代には一人のために大きな墓を造る風習がありました。その人とは、その地域を治めていた王様のような存在であったと考えられています。お墓は、最初は広い範囲を治める権力者のために造られました。時間が経つにつれて、一族の長のためにも造られるようになり、次第に数が増え、埋葬の方法も変わり、規模も小さくなっていきます。そのようなお墓を古墳と呼び、古墳が造られていた時代を古墳時代と呼んでいます。今回はこの時代の生活の道具について、ほんの一部ではありますが、遺跡に残されたものに注目してみましょう。

埋蔵文化財調査センターには、古代に使われた道具などをご覧いただける収蔵庫——展示収蔵庫があります。その南壁の固定式の展示ケースには、鶴沼小伊木町4丁目地内(八龍遺跡)の古墳時代の2軒の家の跡(住居跡)から見つかった土器を展示しています。

写真の右側の土器はS字状口縁台付甕えすじじょうこうえんだいつきがめと呼ばれ、煮炊きに使われました。高さは約17cmです。住居にはまだカマドはなく、中央に作った炉で料理をしていたと考えられます。左側の土器は高坏たかつきと呼ばれ、食べ物を載せたのか、あるいはお供え物を載せて神に感謝していたのかも知れません。高さは約15cmです。



土師器の高坏と甕

甕も高坏も「土師器」という種類の土器で、古墳時代から新たに使われるようになる須恵器すえきと比較すると、色が赤っぽく軟らかいところが特徴です。弥生土器からつながる技術で作られたと考えられ、朝鮮半島から須恵器が伝えられた後も、煮炊きは土師器の役目でした。

甕には3.5cm程の台が付いています。これは炉にかけた時に下からの火を効率的に受けることが出来るようにするための工夫でしょう。



展示の様子

上の写真の左端にある二つの土器も煮炊き用の甕です。高さ約20cm。もう一つの住居で使われていたものですが、先程の甕とは違い、台が付いていない丸底甕です。この住居も炉があることから、煮炊きには河原石などを台にしたのでしょうか。台の有無、この違いが何なのか、はっきりとはわかっていません。

これらの土器の特徴から、この住居に人が住んでいたのは古墳時代の中頃だと考えられます(最近の研究では4世紀後半～5世紀前半)。

八龍遺跡は木曾川沿いの低地部の微高地に広がる遺跡です。住居跡の西から北へは、台地の東の崖が続いています。遺跡から北へ約2kmの台地上には、4世紀後半ぐらいから衣裳塚古墳いしょうづかと坊の塚古墳ぼうづかが連続して造られたと考えられ、当時この住居からも見えたことでしょう。人々は、常に自分たちの地域の権力者の威圧を肌で感じながら、日々の生活をおくっていたのかも知れません。(田中)

リーフレットの刊行

センターでは、市内の遺跡や時代について平易な文章で見易くまとめた解説リーフレットを作成しています。

蘇原東山遺跡群

昭和60年から平成2年にかけて、各務原市の北部丘陵で行なわれた発掘調査の内容をわかりやすく解説したものです。縄文時代前期の住居跡や古墳、そして平安時代の灰釉陶器窯と鎌倉時代の積石塚など、当時の人々の暮らしや文化がよくわかります。

八龍遺跡(A・B地区)

八龍遺跡は、鶴沼東南部地域の歴史を理解するために欠くことの出来ない大切な遺跡です。平成2年度・3年度に緊急発掘調査を実施した範囲について、その結果をわかりやすく紹介しました。

太田古窯跡群A地区

各務原市北東部を中心とした「美濃須衛古窯跡群」の中の太田古窯跡群は、平成4年度に発掘調査が行なわれ、「美濃国刻印須恵器」が発見されたことで注目を集めました。刻印須恵器は遠く畿内でも発見されており、8世紀の日本の須恵器生産を考える意味でも重要な遺跡です。

宮塚遺跡

宮塚遺跡からは、弥生文化の伝播を物語る、弥生時代初期の“遠賀川系土器”が出土しており、美濃地方でもいち早く弥生文化が到来した遺跡であることがわかりました。さらに、集落を取り囲む“環濠”も残りの良い状態で見つかると、弥生時代の人々の暮らしが良くなるかという調査成果となりました。

かかみがはらの石器

市内からは、旧石器・縄文・弥生時代の石器が多数出土しています。狩猟具や加工具などとして使われた石器(石の道具)を調べると、かかみがはらのルーツや、先人の知恵を学ぶことが出来ます。

石器の進化から探る郷土の原始時代を、写真や図を用いてわかりやすく解説しました。

掲 示 板

2000年になり、埋蔵文化財調査センターでも国際交流に対応していくために、各務原国際協会(ロバート・アサートンさん)に協力していただき、展示収蔵庫に展示してある市内からの出土品の英訳をしました。

各務原市を訪れる諸外国の方に、歴史という側面から市の魅力をアピールしていくことが出来るよう、来年度以降も各務原国際協会に協力をお願いし、継続して英訳を充実させていく予定をしております。

新刊報告書の案内

今年度は3冊を刊行しました。購入を希望される方は埋蔵文化財調査センター事務室へお越し下さい。

須衛市立南1号窯址発掘調査報告書

昭和49年に林道の建設工事によって発見された須恵器窯址です。正式な発掘調査は行なわれていませんが、窯体からは須恵器の蓋坏や高坏、瓶類や甕、陶錘などが出土し、美濃須衛古窯跡群の7世紀前半を代表する窯跡です。特に蓋の内面にかえりの付く坏Gと呼ばれる器種は、全国的にも特色のあるもので注目されます。

蘇原中屋敷窯址発掘調査報告書

昭和58年に宅地造成工事により発見された須恵器窯址です。美濃須衛窯において現在確認される最古の窯跡であり、6世紀後葉から7世紀初頭にかけて操業していたと考えられます。

出土遺物のなかで蓋坏は陶邑窯のTK43型式からTK209型式、そしてTK217型式までの要素を含み、美濃須衛窯では須衛市立南1号窯址よりも一型式さかのぼる窯跡として重要です。

須衛宮東窯址発掘調査報告書

昭和63年に宅地の擁壁工事が行なわれた際に窯跡の一部が発見されて、そこから多くの須恵器と鷗尾の破片が出土しました。美濃では7世紀後半以降に各地で多くの寺院が建立されていますが、本窯跡から出土した鷗尾は、共伴する須恵器の年代から7世紀第3四半期の終わり頃に製作されたことが明らかとなりました。

日誌抄 (2000, 1 現在)

◆見学・来訪

4/15	蘇原第2小学校6年生見学	116名
4/20	那加第2小学校見学	80名
4/27	一宮市立神山小学校6年生見学	141名
5/11	尾崎小学校3年生見学	93名
5/12	動く市民教室見学	30名
5/16	滋賀県埋文施設視察	2名
6/4	羽島市立正木小学校6年生	147名
6/5	岐阜大学早川助教授, 岐阜聖徳学園大学清田教授市内遺跡見学	
6/8	門真市教育委員会視察	6名
	埋蔵文化財同好会「かかみの」見学	10名
6/9	保育所保護者会見学	17名
6/16	愛知県埋文石黒氏来訪	
6/19	日本文華アカデミー見学	40名
7/14	動く市民教室(中央むつみ老人クラブ)見学	24名
7/21	動く市民教室(持田東門子ども会)見学	34名
7/28	動く市民教室(鶴2小)見学	30名
8/4	中国から視察団除氏ほか見学	4名
8/6	動く市民教室(夏休み公募)見学 犬山市教育委員会見学	30名 2名
8/19	宇都宮市教育委員会梁木氏視察	1名
8/22	国民文化祭関係者見学	3名
9/14	岐阜教育事務所社会教育課職員見学	17名
10/7	動く市民教室(合歓の木たんぼの会)見学	34名
10/8	各務原教育研究会読書部会見学	23名
10/20	動く市民教室(公募)見学	25名
10/31	図書館体験講座見学	20名
11/4	犬山市立犬山南小学校2年生見学	80名

◆資料等実見・貸出

4/1	愛知県陶磁資料館美濃須衛古窯跡群出土資料貸出し (平成6年より継続)
6/23	牛窓町史編纂委員須恵器調査 栃木県文化振興事業団安永氏須恵器・灰釉陶器実見
7/3	岐阜市教育委員会内堀氏土師器実見
9/16	岐阜県博物館企画展「水とまつり」陶馬貸出(~11/26) 名古屋市博物館炉畑資料実見
9/29	八雲立つ風土記の丘資料館三角縁神獣鏡貸出(~12/1)
9/30	(財)東京都埋文センター鶴間氏遺物実見
10/3	早稲田大学新川教授, 学生ほか遺物実見
10/20	美濃加茂市教育委員会井戸氏遺物実見
11/13	愛知教育大学西宮助教授ほか遺物実見
11/19	(株)日本アートセンター『日本の馬と人』大牧1号墳出土馬具写真掲載
12/14	可児市教育委員会吉田氏坊の塚古墳表採埴輪・三角縁神獣鏡実見, 撮影
1/6	名古屋市博物館(松村氏)企画展「川と遺跡」資料貸出
1/8	岐大早川助教授, 長野県立歴史館福島正樹氏須恵器実見

◆職員派遣・指導鑑定等

6/16	古代史同好会船山北古墳群公園見学職員派遣
6/29	各務原西高等学校進路講話職員派遣
7/21	三井町古代を語る会三井町地内出土土器鑑定
8/22	名古屋歴史サークル市内遺跡見学職員派遣
10/9	美濃市資料館「古代の美濃と長良川の遺跡」講師派遣
10/19	犬山市教育委員会市内文化財めぐり案内職員派遣
10/29	岐阜市下西郷一本松遺跡出土遺物鑑定指導

編集後記

今年には2000年という大きな節目の年でした。埋蔵文化財調査センターも平成3年度の設立以来9年が過ぎ、21世紀には10周年を迎えます。これからもよろしくお願ひします。(T)

〈埋蔵文化財調査センターのご案内〉

開館時間：午前10:00～午後5:00

休館日：毎週月曜日・祝日・年末年始および
市教育委員会の定める日
(祝日が月曜日の場合は火曜日も休館)

交通：名鉄各務原線市民公園前駅下車徒歩一分

入館料：無料

駐車場：右図参照(JRと名鉄の間)

各務原市埋蔵文化財調査センターだより 第8号

〈平成12年3月〉

編集
発行

各務原市埋蔵文化財調査センター

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3-1-3

TEL 0583(83)1123 FAX 0583(71)1145

